



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報

1996・97年度国際ロータリー・テーマ

国際ロータリー会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ



1. 先達の歩みに敬意を払うことによって未来を築こう
2. 会員増強で未来を築こう
3. 職業奉仕の質を高めることによって未来を築こう
4. 次の世代を準備することによって未来を築こう
5. 平和な都市づくりに尽力し、未来を築こう
6. ロータリー財団を支援することによって未来を築こう

会員増強及び拡大月間

第424回 平成8年8月30日(金)

### [本日のプログラム]

1. 点 鐘
2. ロータリーソング  
「手に手つないで」
3. 百万\$の食事
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 各委員会報告
7. 会員増強委員会
8. 点 鐘

### 次回予告

\*9月6日

セレモニー

会員卓話

池田仁志君

### 佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

会長 伊東忠寛

例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913

副会長 徳丸彰一

事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614-

幹事 赤木達也

佐土原町建築業協会内

会計 宮原建樹

☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170

総経理 垂水敏雄

## 第423回例会記録

(1996. 8. 23)

### ☆会長の時間

伊東忠寛君

皆さん今晚は、本日は第423回例会です。

1. 8月9日に行われましたガバナー公式訪問につきましては、会員各位のご協力によりまして無事終了することができました。この席をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

海江田ガバナーから次のようにお礼状が届いています。

『拝啓 益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。この度はご多用中の折り、貴クラブを公式訪問させていただきましたが、会長・幹事様との協議、例会並びにクラブ協議会と、長時間にわたり熱心にお取り組みくださいましたことを衷心より感謝申し上げます。貴クラブの意欲的な本年度計画をお伺いいたし、誠に心強く有り難く存じました。』

貴クラブの益々の充実発展と、会長様はじめ会員の皆様の一層のご健勝、ご活躍を念じ上げ、簡単でございますが御礼に代えさせていただきます。

敬具

平成8年8月16日

国際ロータリー第2730地区  
ガバナー 海江田順三郎

2. 公式訪問に伴い、海江田ガバナー及び日高分区代理から大変有り難いアドバイスをいただきました。佐土原クラブも来年度は創立10周年を迎えるこ

とになり、31名の体制になりましたが、体制的にもあと一息というところであります。しかし、人数が少なくても、体制が弱くても、やらなければならないのであります。小さいから、少ない会員だからこそできることがあると信じます。

そのためには、一人の傍観者や遊兵を作らないように、ロータリアンとして自分の立場と果たすべき役割を自覚して、心を一つにして事に当たらなければならないと思います。

『佐土原クラブだからできること…佐土原クラブでなければならないこと』があるはずで、自分本位の考えでなく、相手や周囲の人にも気配りをしなければならぬと思います。

3. 8月は『会員増強月間』であります。

8月30日の例会は「会員増強委員会」になっていますが、先日お配りしました『会員増強情報報告書』を必ず一人1件提出してください。これは不確定情報でも結構です。この情報に基づき組織的に接触して入会勧誘活動を行うこととなります。

4. 今宵は、新会員（松田清隆君・山本民生君・林卓美君）の歓迎会と新体制下での納涼懇親会が引き続き開催されますが、時間の許す限りご歓談いただき、さらに親睦を深めていただきたいと思います。

5. 9月27日（金）19:00から、シーサイド・ホテルフェニックスにおきまして、恒例の観月家族懇親会を開催したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

### ☆幹事報告

赤木達也君

本日は報告、連絡事項はありません。

### ☆出席報告

委員長代理 神宮寺 利夫君

会 員 数	31名
H C出席者数	28名
欠 席 者 数	3名
出 席 率	90.3%
欠 席 者 名	井・鶴・脚

### ☆ロータリー財団

委員会より 委員長 濱田松太郎

1997年度米山奨学生募集の概要をお知らせいたします。

応募資格者は、①日本以外の国籍を有し、ロータリークラブの所在する国又は地域から、勉強又は研究のために留学生として在日している者で、②1997年4月から日本国内に所在する大学院に在籍することになる者。③そして1957年4月1日以降に出生した者。

詳細は濱田までお問い合わせしてください。

### ☆ロータリー財団奨学生について

直前会長 藤 堂 孝 一 君

ロータリー財団奨学生を申請されています宇都宮さんが、去る8月18日に鹿児島市で最終面接試験を受けられました。

第2730地区からの推薦が決定した時には、本人に当クラブ例会に出席してもらい、挨拶をお願いしたいと思います。

### ☆海江田順三郎ガバナーのアドレス

(平成8. 8. 9. 公式訪問)

本年度のRIテーマ『築け未来を — 行動力と先見の眼で』と、ジアイ会長が未来を築くために提唱された六つのプログラムにつきましては、本日の資料(公式訪問報告書)にも記載されていますので重複を避けませんが、この中で「次の世代を準備する」プログラムが今年度の最重要事項となりますのでご留意願いたいと思います。

ジアイ会長は、新世代のためのロータリー会議をクラブごとに(数クラブ合同でも可)上半期中に開催していただき、そこから出された問題を下半期において具体的な実践行動に移すように強く要請されております。

新世代のための会議は、ロータリーだけでなく、地域の行政、教育、マスコミなどの有識者を青少年の代表と一緒に参加してもらい、青少年にとって何が問題か、ロータリーはどのような対応、支援をすべきかなどを討議して欲しいということでもありますので、是非ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

さて、ロータリーは現在154ヶ国に120万人の会員を擁していますが、日本は1国で1割を超える13万人余の会員を有し、ロータリー財団への寄付も3割に達しています。

日本においてこのようにロータリーが盛んになったのは、勿論戦後の経済成長によるところが大きいと考えられますが、

私は、それだけではなく、日本にはロータリー発生前から、ロータリー的奉仕の思想が伝統的にあったものと思います。

その具体例としまして、先ず江戸初期の鈴木正三（しょうさん）が挙げられます。正三は三河徳川家の武士でありましたが、出家して禅宗の僧侶となり、仮名草紙の作者としても知られています。

鈴木正三は封建時代であって、商工業の地位向上と、世の中の職業には貴賤無く、すべて仏行であると説いております。

鈴木正三の考えに影響されたのが江戸中期（5代綱吉～8代吉宗）に京都で石門心学を開いた石田梅岩でした。

丹波の農家の次男に生まれ、少青年期を京都の商家に奉公した梅岩は、中年になって小栗了雲に師事し、学者として一家を成しました。

彼は市井の門人たちに、生業への精励と同時に、布施の心で世の中の弱い人や困っている人を助けることの大事さを論じました。口先だけでなく、冬の夜に火事で焼け出された人々に、門人を集めて炊き出しをして給食したり、年の暮れに米の値上がりで正月も迎えられない家庭に金銭を施して回るなど、奉仕の実践家でありました。

また、梅岩の孫弟子に当たる中沢道二は、心学を諸国の大名や江戸の旗本にまで広めました。梅岩没後100年を経た幕末の嘉永年間に、中国筋に大水害が起こり、難民が京都に流れ込みましたが、石門派の人々が直ちに巨額の募金活動をして、1万6千名余の難民を1年間救済

した状況を、肥後の横井小楠が国許の家老に報告し、その義挙を賞讃しております。明治に入り、実業家の渋沢栄一が商工業者の実力と品性の向上を第一義と主張しましたが、このような奉仕思想の系譜が日本のロータリー運動のバックボーンとして受け継がれたものと考えられます。

毎週の例会で異業種会員間による発想と情報の交換が行なわれ、友情のエネルギーを奉仕活動に放出する組織体としてのロータリー運動が、日本において更に発展して行くことを期待し、そのための努力を私達は続けなければならないと存ずる次第であります。

◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆

#### [第423回例会での連絡事項]

\*親睦委員会 委員長 林 厚雄 君  
伊東会長にご尽力いただきまして、観月会場の予約ができました。

例年のように、シーサイドホテルフェニックスの『ルーフガーデン』です。

9月27日（金）の午後7時から9時まで、奥様・お子様ご同伴のうえ、仲秋の名月の下で、ロータリーの仲間と楽しい一夜をお過ごしください。

全員のご参加をお願いいたします。

\*SAA 田村 勝二 君  
神宮寺ホテル内をお借りしていました佐土原ロータリークラブ関係の書類・用品置場を、8月28日（水）午後から整理しますので、ご都合のつく方はご加勢をお願いします。

.....  
新会員歓迎会・新旧役員感謝・激励会は盛り上がり、親睦と結束を深めました。